

# 草津未来研究所 News Letter

第11回自治体シンクタンク研究交流会議に参加しました！



## 開催テーマ

「ロジックモデルの導入と実践における自治体シンクタンクの役割」

11月6日および7日に第11回自治体シンクタンク研究交流会議が熊本市にて開催されました。この交流会議は自治体シンクタンクがある自治体が持ち回りで開催しており、全国から自治体シンクタンク関係者が集まり、自治体内のシンクタンク機能のあり方や共通課題の改善策などを議論し、新たな気づきと全国のネットワーク構築を目的に開催しています。

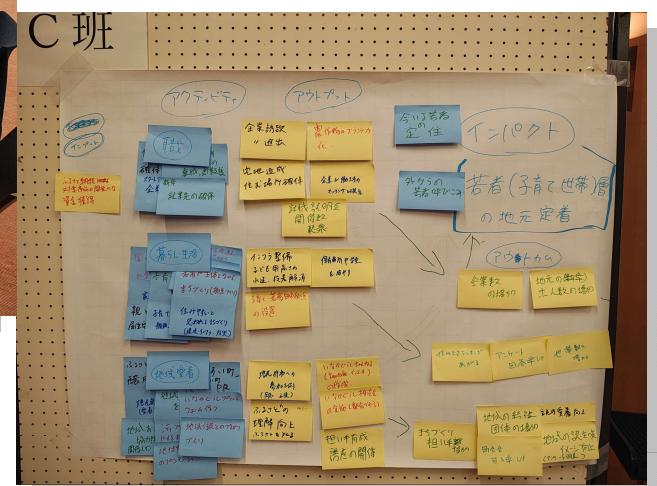


1日目は(株)日本総合研究所リサーチコンサルティング部門理事山田英司氏より基調講演「ロジックモデルを導入し、EBPMを推進する上での自治体シンクタンクの役割」をお話しいただいた後、同じく(株)日本総合研究所リサーチコンサルティング部門マネージャーである菅章氏によるワークショップを行いました。



ワークショップは「ロジックモデルからみえる自治体シンクタンクのあるべき姿」をテーマに行われ、参加者同士で議論を行い、『自治体シンクタンクのあるべき姿』に向けたロジックモデルの構築を行いました。また、終了後は交流会が行われ、日ごろの取り組み等について議論を交わし、参加者間の交流がさらに深まりました。

2日目においても菅原氏によるワークショップが行われ、「各分野におけるロジックモデルを活用した課題解決」をテーマに、決められたお題に対してロジックモデルを構築しました。2日間を通して、改めてEBPM(Evidence-Based Policy Making:エビデンスに基づく政策立案)を学び参加者と議論を交わすことで、ロジックモデル構築の難しさを感じながらも、様々な視点を得ることができました。



### 「自治体シンクタンク」ってなに？

自治体が設置したシンクタンク(政策研究機関)のことです。

自治体シンクタンクの定義は様々ありますが、『都市とガバナンス vol.27』(2017)では「地方自治体の政策創出において徹底的な調査・研究を行い、当該問題を解決するための提言を行うために組織された機関(団体)」と定義されています。

草津未来研究所は草津市のシンクタンクとして本市の政策課題に即しながら、課題解決や政策立案等の政策形成に結びつく調査研究活動を行っています。

